

2018年の大雨

平成30年7月豪雨の影響で西日本を中心に記録的な雨、
相次ぐ台風により各地で暴風雨

1. 概要

平成30年の梅雨入りは沖縄地方と奄美地方で平年よりかなり遅く、九州南部で遅かった。奄美地方の梅雨入りは5月27日ごろで、1951年の統計開始以降最も遅かった。その他の地方は平年並か早かった。梅雨明けは平年より早い地方が多く、中国地方から東北南部にかけてはかなり早かった。関東甲信地方の梅雨明けは6月29日ごろで、1951年の統計開始以降最も早かった。

6月下旬から7月上旬にかけては、日本付近に停滞した梅雨前線や台風等の影響で、各地で大雨となった。特に、6月28日から7月10日にかけては、西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、甚大な被害が発生した（平成30年7月豪雨）。

9月3日から5日にかけては、台風第21号の影響で、四国地方から東海地方を中心に暴風雨となり、特に大阪湾において記録的な高潮となり、浸水等の被害が発生した。

9月28日から10月1日にかけては、台風第24号の影響で広い範囲で暴風雨となり、関東地方では塩害による停電で鉄道の運休が発生した。

2. 主な大雨

ここでは、人的被害や社会活動に影響をもたらした大雨について、気象と災害の状況をまとめた。被害状況については、主に気象庁がとりまとめた資料によるが、一部、内閣府等発表の資料も使用した。また、人的被害の数には風等を原因とするものも含まれる。なお、風速や降水量などの観測値を記載する際の観測地点名は、都道府県名、市町村名とした。

(1) 3月8日～3月9日：東日本から北日本（大雨、融雪）＜低気圧、前線＞

3月8日から9日は、前線を伴った低気圧が西日本から北日本を北東に進んだ影響で全国的に雨となり、西日本から北日本の太平洋側では一部で大雨となっ

た。

この影響で、東日本から北日本で大雨や融雪による土砂災害や浸水害が発生し、死者1名の人的被害のほか、交通障害や停電、家屋の浸水が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(2) 4月24日～4月25日：西日本から東日本（大雨、暴風）＜低気圧、前線＞

4月24日から25日は、前線を伴った低気圧が東シナ海から三陸沖まで進んだ影響で全国的に雨となり、四国地方の多いところで日降水量が200mmを超えるなど、西日本から東日本の各地で日降水量100mmを超える大雨となった。また、最大風速が北海道えりも町で25.5m/s、和歌山県和歌山市で20.6m/sとなるなど、西日本から北日本では非常に強い風を観測したところがあった。

この影響で、西日本から東日本では、暴風による負傷者1名の人的被害のほか、土砂災害による通行止め等の交通障害が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(3) 5月17日～5月19日：東日本から北日本（大雨、暴風、高波）＜低気圧、前線＞

5月17日から19日は、前線が北日本から本州の南まで南下した影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、18日頃に前線上の低気圧が北日本付近に停滞したため、東北地方では多いところで日降水量200mmを超える大雨となった。また、北海道では非常に強い風を観測したところがあった。

この影響で、東日本から北日本では、高波による漁船の転覆や河川の増水による行方不明者2名、強風による負傷者8名のほか、土砂災害や浸水害による住家被害や交通障害等が発生した。（被害の状況は気象庁調べ）

(4) 5月20日～7月10日：全国（大雨，暴風，高波，突風）＜梅雨前線，台風第5号，第6号，第7号，第8号＞

※平成30年7月豪雨を含む梅雨期一連の大雨等

平成30年5月20日から7月10日にかけて，梅雨前線が沖縄・奄美から本州付近に停滞し，断続的に活動が活発となった。この間，6月10日から11日にかけて台風第5号が，6月15日から17日にかけて台風第6号が，7月1日から4日にかけて台風第7号が，7月10日から11日にかけて台風第8号が日本に接近した。これらの台風や前線等の影響により，各地で大雨，暴風となった。

期間中において特に，6月28日から7月8日にかけて，日本付近に停滞した梅雨前線や台風第7号の影響で暖かく非常に湿った空気が継続して流れ込み，総降水量が多いところで1800mmを超えるなど，西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となった（平成30年7月豪雨）。この大雨による河川の氾濫，土砂災害等で，死者は237名，行方不明者は8名に及び，平成に入って最悪の人的被害となったほか，家屋の全半壊は約18,000棟，浸水家屋は約30,000棟に達した。（被害の状況は，平成31年1月9日の内閣府とりまとめによる）

※以下，期間内に特に顕著な雨となった期間の気象概況を記載

(4-1) 6月14日から6月18日

6月14日から18日にかけて梅雨前線は日本の南付近に停滞した。この間，14日から16日にかけて前線上の低気圧が日本の南海上を通過し，15日から18日にかけては，台風第6号及び台風から変わった低気圧が沖縄付近から日本の南海上を通

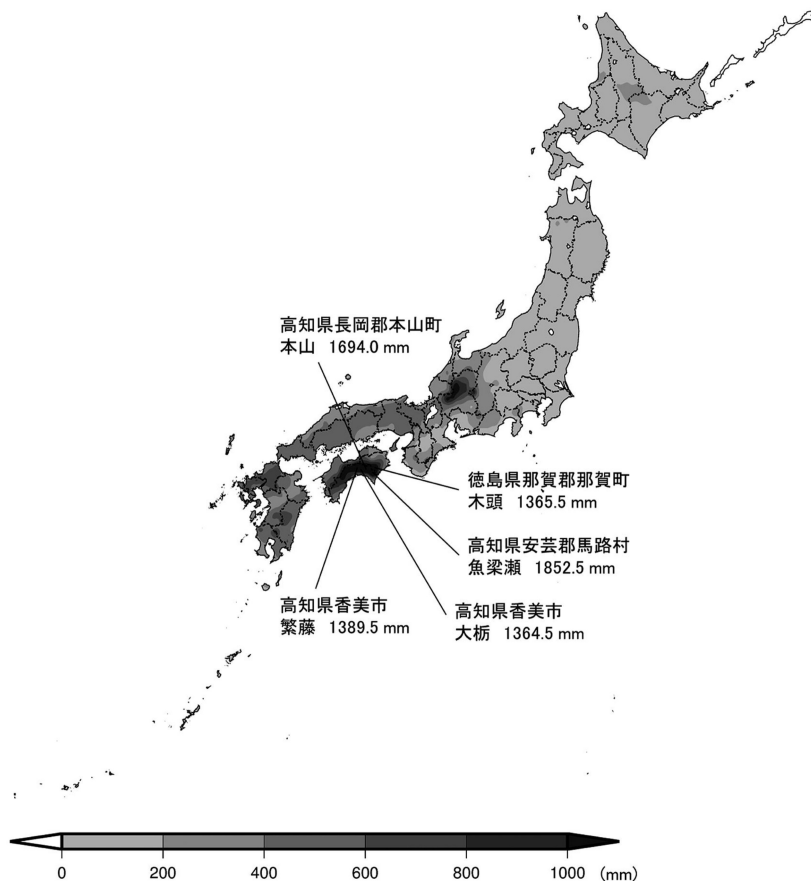
過した。これらの影響で，沖縄・奄美及び西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となり，沖縄・奄美や伊豆諸島で日降水量が100mmを超える大雨となった。風については，沖縄・奄美や伊豆諸島で非常に強い風を観測したところがあった。

(4-2) 6月19日から6月22日

6月19日から22日にかけて，梅雨前線が本州南岸付近に停滞し，その間，前線上を低気圧が東に進んだ。この影響で，奄美地方の多いところで日降水量300mmを超える大雨となったほか，西日本から東日本の太平洋側を中心に，各地で日降水量100mmを超える大雨となった。

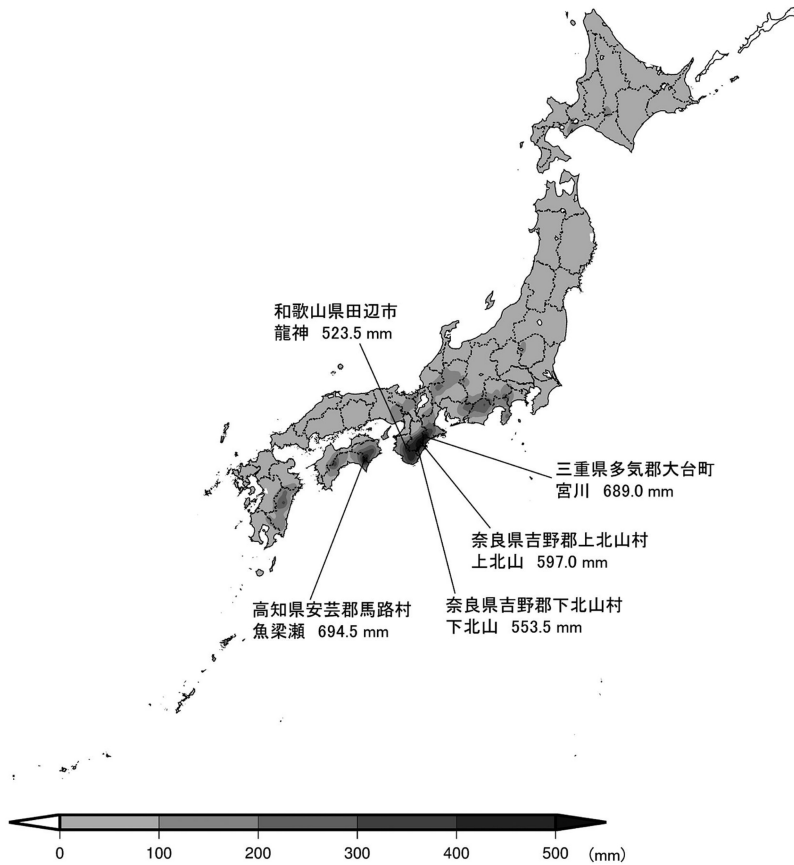
(4-3) 6月26日から6月27日

6月26日から27日にかけて，低気圧が渤海から日本海を通過して千島近海へ進み，低気圧からのびる梅雨前



※上位5地点については地点名・値を記載

第1図 総降水量分布図（期間：6月28日～7月8日）



※上位5地点については地点名・値を記載

第2図 総降水量分布図 (期間：8月20日～8月25日)

線は日本海南部へと南下した。この影響で全国的に雨となり、北海道地方や東北地方を中心に多いところで日降水量100mmを超える大雨となった。

(4-4) 6月28日から7月8日(平成30年7月豪雨)

6月28日以降、華中から日本海を通過して北日本に停滞していた前線は7月4日に関東付近に北上した後、7月5日には西日本まで南下してその後停滞した。また、6月29日に日本の南で発生した台風第7号は東シナ海を北上し、対馬海峡付近で進路を北東に変えた後、7月4日15時に日本海で温帯低気圧に変わった。前線や台風第7号の影響により、日本付近に暖かく非常に湿った空気が供給され続け、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となった。

6月28日から7月8日までの総降水量が四国地方で1800mm、東海地方で1200mmを超えるところがあるなど、7月の月降水量平年値の2～4倍となる大雨と

なったところがあった。また、九州北部、四国、中国、近畿、東海、北海道地方の多くの観測地点で24、48、72時間降水量の値が観測史上第1位となるなど、広い範囲における長時間の記録的な大雨となった。

この期間中の風については、台風第7号の影響で、沖縄・奄美及び西日本や北日本で非常に強い風を観測したところがあった。

(5) 7月28日～8月16日：全国(大雨、暴風、高波) <台風第12号、第13号、第14号、第15号、第18号、前線>

7月28日から8月16日にかけて、相次ぐ台風や前線の影響で断続的に大気の状態が不安定となり、全国各地で大雨となった。台風第12号は7月29日に西日本に上陸し、台風第13号は8月8日から10日にかけて関東地方から東北地方に接近

し、台風第14号は10日から12日にかけて沖縄・奄美に接近し、台風第15号は15日に九州に上陸し、台風第18号は15日に沖縄・奄美に接近した。また、8月5日から6日は、北日本に前線が停滞した影響で、北日本では一部で大雨となった。

これらの台風等の影響で、西日本から北日本の広い範囲で、多数の住家被害や交通障害、停電等が発生した。特に、台風第12号により、東日本の太平洋側を中心に、負傷者33名の人的被害のほか、多数の住家被害や交通障害が発生した。また、8月15日から16日にかけては、台風第15号、第18号、前線等の影響で、東日本や東北地方を中心に、死者・行方不明者2名、負傷者2名の人的被害のほか、土砂災害や家屋の浸水、交通障害等が発生した。(被害の状況は、気象庁及び、平成31年1月9日の消防庁とりまとめ、平成30年8月1日の国土交通省とりまとめによる)

※以下、期間内に特に顕著な雨となった期間の気象概況を記載

(5-1) 7月28日から7月29日

台風第12号は、7月28日から29日にかけて、伊豆諸島の東から本州南岸を西に進み、29日01時頃に三重県伊勢市付近に上陸し、29日18時前に福岡県豊前市付近に再上陸した。その後、台風は次第に進路を南に変え、29日23時頃に島原半島を通過した後、東シナ海へと進んだ。

台風の影響で、西日本から東日本の太平洋側を中心に雨となり、関東地方では多いところで日降水量200mmを超える大雨となった。風については、東海地方や伊豆諸島で猛烈な風を観測したところがあった。

(5-2) 8月15日から8月16日

8月15日から16日は、北日本に停滞する前線上に低気圧が発生し、発達しながら東に進んだ。また、台風第15号が15日02時30分頃に宮崎県に上陸し、対馬近海で熱帯低気圧となった。さらに、台風第18号が、東シナ海を北西に進んだ。これらの影響で全国的に雨や雷雨となり、沖縄・奄美及び西日本の太平洋側、北陸地方から北日本の日本海側の各地で日降水量100mmを超える大雨となったほか、奄美地方や北海道では非常に強い風を観測したところがあった。

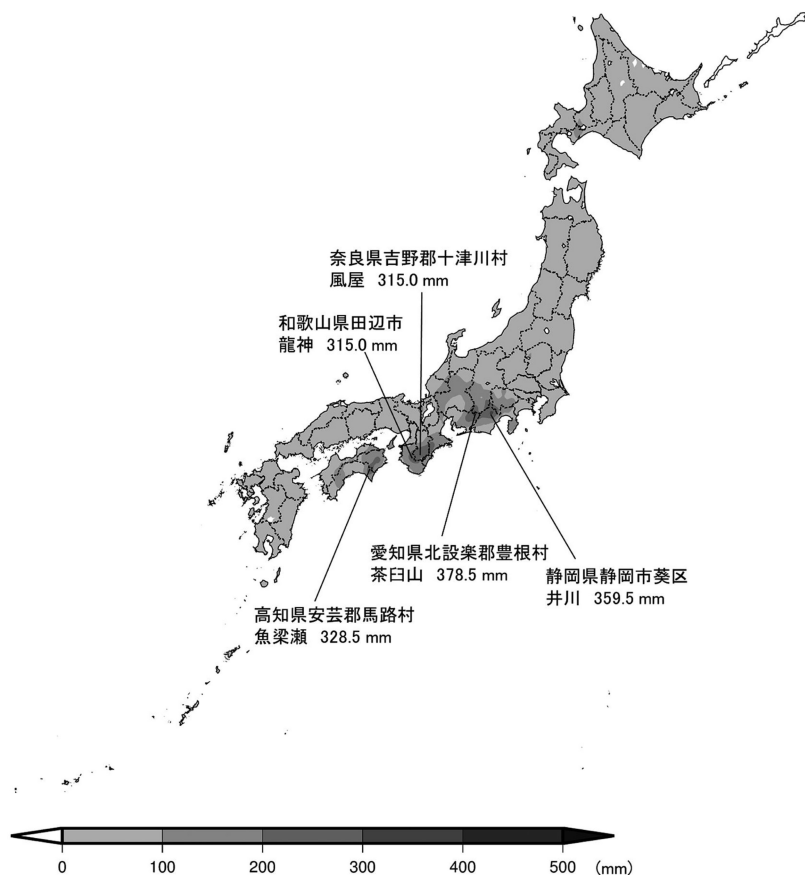
(6) 8月20日～9月5日：

西日本から北日本（大雨、暴風、高波、高潮、突風）＜台風第19号、第20号、第21号、前線＞

8月20日から9月5日にかけて、日本の東海上に中心を持つ高気圧の縁を回って暖かく湿った空気が入りやすい気圧配置が続き、前線の活動が活発となった。

また、この期間中に、台風第19号、第20号、第21号が日本に接近・上陸した。これらの影響により各地で大雨、暴風となった。

これらの台風等の影響で、西日本から北日本の広い範囲で、多数の住家被害や交通障害、停電等が発生した。特に、台風第19号、第20号の影響で、西日本や東海地方を中心に、負傷者35名の人的被害のほか、多数の住家被害や交通障害が発生した。更に、台風第21号の影響で、西日本を中心に死者14名の人的被害が生じたほか、暴風によりタンカーが関西国際空港連絡橋に衝突する事故や、高潮及び高波により関西国際空港の滑走路や兵庫県芦屋市等の住宅地で浸水被害が発生するなど、大阪湾において広範囲に被害をもたらした。（被害の状況は、平成31年2月12日の消防庁とりまとめ、平成30年8月24日の内閣府とりまとめ、平成30年



※上位5地点については地点名・値を記載

第3図 総降水量分布図（期間：9月3日～9月5日）

10月2日の内閣府とりまとめ、平成30年12月18日の大阪湾港湾等における高潮対策検討委員会資料による)

※以下、期間内に特に顕著な雨となった期間の気象概況を記載

(6-1) 8月20日から8月25日

台風第19号は、8月21日から22日にかけて非常に強い勢力で奄美大島付近から九州の西海上を北西に進んだ後、23日には黄海で北東に進路を変え朝鮮半島を横断し、その後、日本海に進み、25日03時に温帯低気圧に変わった。また、台風第20号は、強い勢力を保ったまま23日21時頃に徳島県南部に上陸、23日23時30分頃に兵庫県姫路市付近に再上陸し、近畿地方を縦断した。その後日本海を北上し、24日21時に日本海北部で温帯低気圧に変わった。

2つの台風の影響で、8月20日から25日までの期間

降水量は高知県馬路村で694.5mm、三重県大台町で689.0mmを観測するなど、四国地方から東海地方を中心に大雨となった。また、同期間での最大風速は、和歌山県和歌山市で41.9m/s、高知県室戸市では39.6m/sを観測するなど、四国地方や近畿地方を中心に猛烈な風を観測したところがあった。

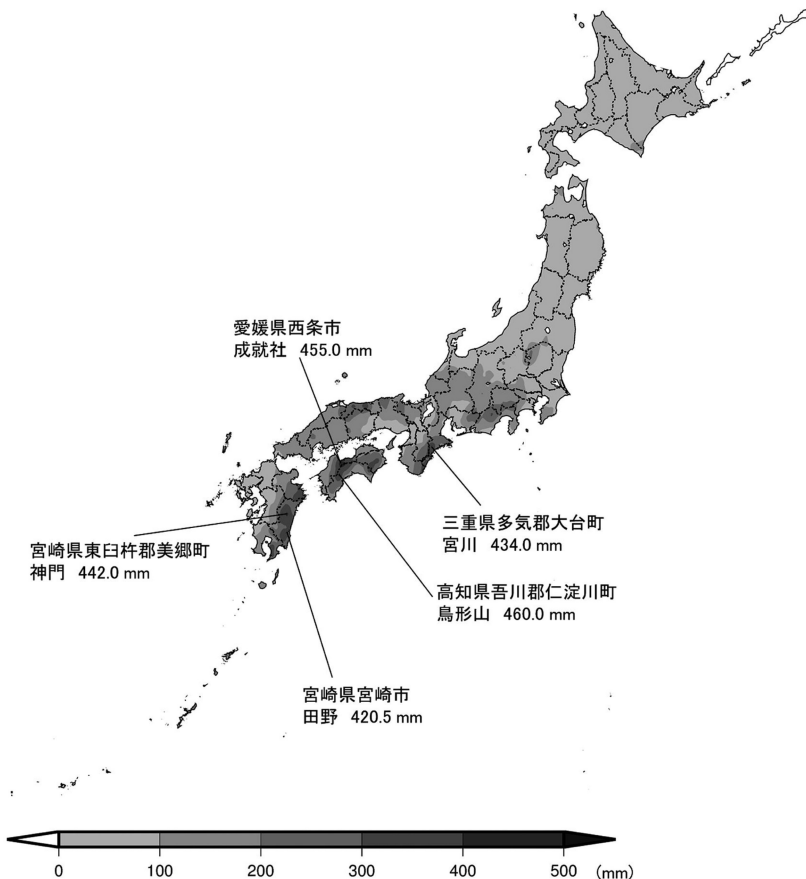
(6-2) 9月3日から9月5日

台風第21号は、4日12時前に非常に強い勢力で徳島県南部に上陸した後、同日14時前、兵庫県神戸市付近に再上陸した。その後、速度を上げながら近畿地方を縦断した後、日本海沿岸を北上して5日09時に沿海州の沿岸で温帯低気圧に変わった。

台風の接近・通過の影響で、9月3日から9月5日までの期間降水量は、愛知県豊根村で378.5mm、高知県馬路村では328.5mmを観測するなど、四国地方から東海地方を中心に大雨となった。風については、大阪府田尻町（関西空港）で最大風速46.5m/s、最大瞬間風速58.1m/sとなるなど四国地方や近畿地方を中心に猛烈な風を観測し、観測史上第1位を記録したところがあった。高潮については、大阪府大阪市で最高潮位329cmなど、過去の最高潮位を超える値を観測したところがあった。

(7) 9月28日～10月1日：
全国（大雨，暴風，高波，突風）＜台風第24号，前線＞

9月21日にマリアナ諸島近海で発生した台風第24号は、沖縄の南を北西に進み、9月28日から30日明け方にかけて、非常に強い勢力で沖縄地方に接近した後、北東に向きを変え、急速に加速しながら、30日20時頃に和歌山県田辺市付近に上陸した。その後、東日本から北日本を縦断し、10



※上位5地点については地点名・値を記載

第4図 総降水量分布図（期間：9月28日～10月1日）

月1日09時に日本の東で温帯低気圧に変わった。

台風第24号の接近・通過に伴い、広い範囲で暴風、大雨、高波、高潮となった。雨については、9月28日から10月1日までの総降水量が九州地方及び四国地方や東海地方で400mmを超えたところや9月の月降水量平年値を超えたところがあった。風については、鹿児島県奄美市で最大風速40.0m/s、最大瞬間風速52.5m/sとなるなど、南西諸島及び西日本・東日本の太平洋側を中心に猛烈な風を観測し、観測史上第1位を記録したところがあった。高潮については、和歌山県串本町で最高潮位254cmなど、過去の最高潮位を超える値を観測したところがあった。

この台風によって死者4名の人的被害が生じたほか、南西諸島及び西日本から東北地方の広い範囲で住家被害が生じ、10,000棟を超える被害となった。また、海水の塩分を含んだ暴風により塩害が発生し、各地で農地の被害が生じたほか、関東地方では塩害による停電で鉄道の運休が発生した。(被害の状況は、平成31年2月12日の消防庁とりまとめ、平成30年10月2

日の内閣府とりまとめによる)

(8) 10月3日～10月7日：沖縄・奄美及び西日本、北日本(大雨、暴風、高波) <台風第25号、前線>

台風第25号は、10月4日から5日にかけて南西諸島に接近した後、東シナ海を北上した。台風は大型のまま、6日には対馬海峡を経て日本海を北東に進み、6日21時に同海域にて温帯低気圧となり、その後東に進み、8日03時に日本のはるか東海上にて消滅した。

台風第25号や台風から変わった温帯低気圧の接近・通過に伴い、沖縄地方や東北地方で猛烈な風を観測したところがあったほか、西日本から北日本にかけて非常に強い風を観測したところがあった。また、台風からの湿った空気の影響で、西日本の太平洋側では日降水量が300mmを超える大雨となったところがあった。

この台風によって死者1名、負傷者27名の人的被害が生じたほか、沖縄・奄美及び西日本や北日本では住家の一部損壊が166件発生した。(被害の状況は、平成31年2月12日の消防庁とりまとめによる)

気候情報

2018年の台風

発生数は29個、日本への接近数は16個で、そのうち5個が上陸し、いずれも平年を上回った。

1. 概要

台風の発生数は平年より多い29個(平年値25.6個)であった。8月には9個の台風が発生し、台風の統計を開始した1951年以降、8月の発生数としては1960年と1966年の10個に次ぐ3位タイの多さとなった。

日本への台風の接近数は平年より多い16個(平年値11.4個)であった。また、本土(北海道・本州・四国・九州)および沖縄・奄美への接近数はそれぞれ10個と13個で、ともに2位の多さであった。

日本への台風のの上陸数は平年値2.7個より多い5個(第12号、第15号、第20号、第21号、第24号)であった。第1表に台風の発生数、上陸数、接近数を、第2表

に発生した台風の一覧を示す。

2. 日本に影響を及ぼした主な台風

日本に影響した台風(本稿では台風の中心が日本から概ね500kmに入った場合とする)のうち、主な台風について以下に概要を示す。また、時刻については、全て日本時で表記した。第3表に日本に影響した台風の一覧、第1図にその経路図を示す。

(1) 台風第5号(1805 MALIKSI マリクシ)

6月4日03時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は、北へ進んだ後、北西へ進み、8日03時に同

第1表 平成30年(2018年)の台風発生数、日本への上陸数*1、日本への接近数*2と平年値及び平成29年(2017年)との比較。

項目	月	月												年間
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
平年値	発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6
	上陸数					0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0		2.7
	接近数				0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
平成29年(2017年)	発生数				1		1	8	5	4	3	3	2	27
	上陸数							1	1	1	1			4
	接近数							4	2	2	2			8
平成30年(2018年)	発生数	1	1	1			4	5	9	4	1	3		29
	上陸数								1	2	2			5
	接近数						2	4	7	2	2	1		16

(注)・平年値は、昭和56年(1981年)～平成22年(2010年)の30年平均。

・日本への接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸*1 台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合をいう。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は通過とする。

接近*2 台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合をいう。

海域で台風第5号となった。台風は進路を次第に北東へ変化させ、10日09時に沖縄本島の南東で勢力が最大となった。台風は進路を北東に保ったまま徐々に勢力を弱め、12日03時に本州の東で温帯低気圧となり、その後進路を東に変え、13日09時に日本のはるか東で消滅した。

(2) 台風第6号(1806 GAEMI ケーミー)

6月13日21時に南シナ海で発生した熱帯低気圧は東へ進んだ後、15日09時に台湾海峡付近で台風第6号となり、その後すぐに台湾に上陸した。台風は東北東へと進路を変え、16日15時に沖縄本島付近で勢力が最大となった。台風は進路を東北東に保ったまま、17日09時に九州の南で温帯低気圧となり、その後徐々に進路を北東に変化させた後、22日03時に日本のはるか東で消滅した。

(3) 台風第7号(1807 PRAPIROON プラピルーン)

6月28日09時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は西に進んだ後、29日09時に沖縄本島の南南東海上にて台風第7号となり、北西へと進路を変えた。台風は次第に北東へと進路を変え、7月3日03時に沖縄本島付近にて勢力が最大となった。台風は進路を北東に保ちながら、次第に勢力を弱め、4日15時に日本海にて温帯低気圧となり、翌日5日21時に北日本付近にて消滅した。

(4) 台風第8号(1808 MARIA マリア)

7月3日09時にマリアナ諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西へ進みながら、4日21時に同海域で台風第8号となり、9日09時にフィリピンの北東海上にて勢力が最大となった。台風は11日09時過ぎに華南へ上陸し、12日03時に華中にて熱帯低気圧となり、13日09時に同地域にて消滅した。

(5) 台風第10号(1810 AMPIL アンピル)

7月17日21時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は東北東へと進み、18日21時に同海域にて台風第10号となった。台風は次第に北西へと進路を変え、20日03時に沖縄本島の南東海上にて勢力が最大となった。台風は北西の進路を保ったまま、21日08時過ぎに沖縄本島を通過し、東シナ海を北西に進んだ後、華中に上陸し、23日21時に黄河下流付近にて熱帯低気圧となった。次第に北東へと進路を変えた後、25日09時に中国東北区付近にて温帯低気圧に変わり、26日21時に沿海州付近にて消滅した。

(6) 台風第12号(1812 JONGDARI ジョングダリ)

7月24日03時にフィリピンの東海上にて発生した熱帯低気圧は北に進み、24日21時に同海域にて台風第12号となった。台風は進路を次第に北東へ変えた後、27日09時に小笠原諸島の南にて勢力が最大となった。台風は次第に反時計回りに進んだ後、29日01時頃に三重県伊勢市付近に上陸し、西日本を西に進み、29日18時

第2表 平成30年(2018年)に発生した台風の一覧表。

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生		台風の発生		台風期間中の最低(大)値				熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置		消滅前の最後に確認された日時と位置、又は域外に出た最初の日時	
		月日時	北緯 東経	月日時	北緯 東経	海面気圧	風速	強風半径	月日時	北緯 東経	種類	月日時	北緯 東経
1	BOLAVEN	12 30 03	7.4 138.0	1 3 09	10.4 116.0	1 4 03 1002	1 4 03 18	60	1 4 03	12.3 111.0	TD	1 4 15	12.3 110.0
2	SANBA	2 8 09	8.1 150.8	2 11 15	6.8 135.8	2 13 03 1000	2 13 09 18	NW:440 SE:170	2 12 21	9.6 124.6	TD	2 16 15	9.8 115.7
3	JELAWAT	3 25 03	5.8 143.0	3 25 15	6.6 140.3	3 30 21 915	3 30 21 55	220	4 1 03	19.3 144.4	TD	4 1 15	19.1 145.6
4	EWINIAR	6 3 03	14.2 112.0	6 5 09	17.5 111.4	6 8 21 998	6 8 09 20		6 8 09	23.1 113.3	TD	6 11 15	24.9 125.3
5	MALIKSI	6 4 03	9.7 131.8	6 8 03	17.3 127.9	6 10 18 970	6 10 18 30	SE:750 NW:370	6 11 21	36.5 148.0	L	6 13 03	38.8 157.7
6	GAEMI	6 13 21	21.6 117.1	6 15 09	22.7 120.2	6 16 15 990	6 16 15 23	E:390 W:220	6 17 03	28.5 132.1	L	6 21 21	41.0 154.1
7	PRAPIROON	6 28 09	19.8 132.8	6 29 09	19.8 130.3	7 3 06 960	7 3 06 35	SE:560 NW:220	7 4 09	39.6 134.8	L	7 5 15	41.7 140.2
8	MARIA	7 3 09	10.1 147.8	7 4 21	12.6 145.6	7 9 21 915	7 9 21 55	NE:560 SW:440	7 1 00	27.9 115.6	TD	7 13 03	30.6 111.8
9	SON-TINH	7 16 09	18.4 125.3	7 17 09	19.4 118.5	7 19 03 994	7 18 21 20	N:390 S:220	7 18 21	19.1 104.4	TD	7 25 03	23.6 107.6
10	AMPIL	7 17 21	18.4 127.9	7 18 21	19.7 130.0	7 22 21 985	7 22 03 25	NE:500 SW:330	7 22 03	36.5 117.9	TD	7 26 15	47.5 137.8
11	WUKONG	7 22 09	22.0 159.6	7 23 21	27.3 159.4	7 25 21 990	7 25 21 25	E:560 W:220	7 27 03	44.3 152.2	L	7 27 21	47.9 155.7
12	JONGDARI	8 2 15	17.4 137.0	8 3 09	17.7 136.7	7 28 12 960	7 28 12 40	SE:500 NW:280	8 3 09	30.6 121.5	TD	8 4 21	34.1 115.7
13	SHANSHAN	8 2 15	18.1 152.0	8 3 09	17.7 150.9	8 8 09 970	8 8 09 35	E:560 W:390	8 8 09	41.0 151.0	L	8 11 15	40.6 169.4
14	YAGI	8 6 09	18.2 134.1	8 8 09	19.2 132.5	8 13 03 990	8 12 21 20	NE:500 SW:280	8 12 15	30.7 118.9	TD	8 16 09	35.3 116.1
15	LEEPI	8 10 21	17.5 145.0	8 11 21	19.7 143.4	8 14 21 994	8 14 21 25	E:280 W:170	8 14 18	33.9 130.0	TD	8 15 21	35.7 129.3
16	BEBINCA	8 10 03	19.9 111.6	8 13 09	20.6 112.9	8 16 21 985	8 16 21 23	S:220 N:110	8 16 21	19.0 104.0	TD	8 18 03	19.8 100.3
17	HECTOR		域外	8 14 03	25.8 178.9	8 14 09 998	8 14 09 20	N:220 S:110	8 15 15	29.9 167.9	TD	8 17 03	33.6 165.7
18	RUMBIA	8 14 09	22.9 128.7	8 15 15	28.2 126.9	8 17 15 985	8 17 09 23	NE:440 SW:170	8 18 03	32.2 115.3	TD	8 19 21	34.1 116.4
19	SOULIK	8 15 15	11.7 144.7	8 16 09	15.6 143.0	8 22 12 950	8 22 12 45	NE:390 SW:330	8 21 00	41.1 133.9	L	8 30 15	域外
20	CIMARON	8 16 21	11.3 160.3	8 18 21	14.0 153.9	8 23 00 950	8 23 00 45	SE:560 NW:280	8 24 09	41.7 139.7	L	8 24 21	41.7 139.7
21	JEBI	8 27 03	11.0 160.5	8 28 03	14.5 157.9	9 1 15 915	9 1 15 55	S:950 N:560	9 5 03	46.5 139.0	L	9 7 15	域外
22	MANGKHUT	9 6 21	11.8 170.2	9 7 21	12.7 165.4	9 15 03 905	9 15 03 55	E:750 W:560	9 15 15	24.0 107.0	TD	9 18 03	24.1 103.9
23	BARIJAT	9 8 15	20.5 121.8	9 11 09	20.9 118.7	9 13 03 998	9 13 03 20	110	9 13 09	22.0 109.9	TD	9 13 15	22.0 109.9
24	TRAMI	9 20 15	11.8 146.7	9 21 15	15.0 143.7	9 25 15 915	9 25 15 55	650	10 1 09	41.3 144.2	L	10 4 03	域外
25	KONG-REY	9 28 09	7.4 150.9	9 29 15	12.6 142.6	10 2 15 900	10 2 15 60	750	10 3 21	38.9 133.7	L	10 7 21	41.2 152.0
26	YUTU	10 21 03	8.4 160.7	10 22 09	9.4 156.1	10 25 09 900	10 25 09 60	NW:600 SE:500	10 28 03	20.7 116.1	TD	11 3 09	19.9 115.7
27	TORAJI	11 17 03	10.0 112.5	11 17 15	10.9 111.3	11 17 21 1004	11 18 03 18	NW:170 SE:110	11 18 03	11.6 109.5	TD	11 18 21	11.8 108.2
28	MAN-YI	11 20 21	5.0 152.6	11 21 03	5.8 152.2	11 25 09 960	11 25 09 40	N:560 S:220	11 24 09	23.5 132.4	TD	11 30 21	域外
29	USAGI	11 13 09	9.2 156.7	11 22 09	11.3 117.0	11 24 15 990	11 24 15 30	N:330 S:220	11 25 09	11.4 105.9	TD	11 27 03	12.0 104.0

表中の日はすべて日本時(JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5 m/s単位に換算、強風半径は海里で解析し、10km単位に換算しているため、必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

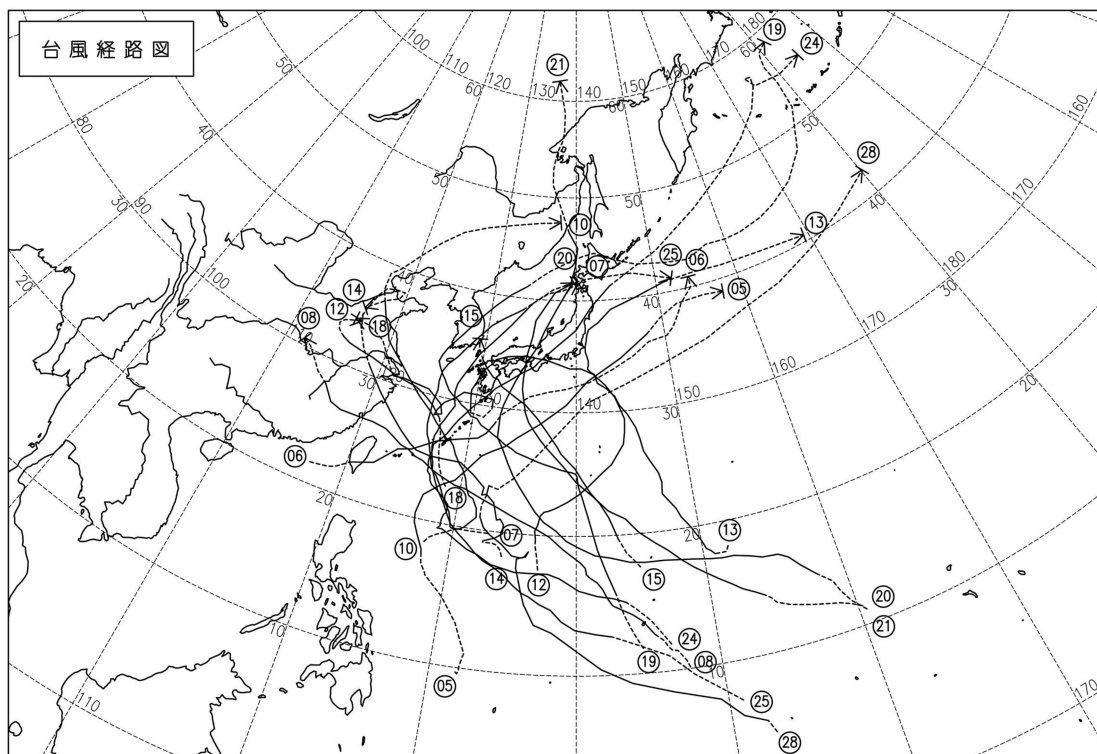
域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、東経100°より西側、又は北緯60°より北側の領域。

台風第1号の「熱帯低気圧の発生日時」は2017年12月30日03時。

第3表 平成30年(2018年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧, 温帯低気圧の期間は除く)。

台風 番号	日本への影響 (台風の中心が日本から概ね500km以内 に入った場合)			日本への接近 (台風の中心が日本から概ね300km以内 に入った場合)			上陸, 通過
	月日		地 域	月日		地 域	
	始	終		始	終		
5	6/9	6/11	沖縄・奄美, 九州南部, 近畿地方, 東海地方, 伊 豆諸島, 小笠原諸島, 関 東甲信地方, 東北地方	6/10	6/11	沖縄地方, 伊豆諸島, 小 笠原諸島, 関東甲信地方	上陸または通過せず。
6	6/15	6/17	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方, 四国地方	6/15	6/17	沖縄・奄美, 九州南部	上陸または通過せず。
7	6/30	7/4	沖縄・奄美, 西日本, 東 海地方, 関東甲信地方, 北陸地方, 東北地方	7/1	7/4	沖縄・奄美, 西日本, 北 陸地方	上陸または通過せず。
8	7/9	7/11	沖縄・奄美	7/10	7/11	沖縄地方	上陸または通過せず。
10	7/19	7/22	沖縄・奄美, 九州南部	7/20	7/21	沖縄・奄美	21日08時過ぎ, 沖縄県沖縄 本島を通過した。
12	7/26	8/2	沖縄・奄美, 西日本, 東 日本, 東北地方	7/27	8/2	沖縄・奄美, 西日本, 東 日本	29日01時頃, 三重県伊勢市 付近に上陸した。 29日18時前, 福岡県豊前市 付近に再上陸した。 29日23時頃, 長崎県島原半 島を通過した。
13	8/6	8/10	近畿地方, 東日本, 北日 本	8/8	8/10	東日本, 東北地方	上陸または通過せず。
14	8/10	8/13	沖縄・奄美	8/10	8/12	沖縄・奄美	上陸または通過せず。
15	8/12	8/15	奄美地方, 西日本, 東海 地方, 伊豆諸島, 小笠原 諸島	8/14	8/15	九州南部, 九州北部地方, 四国地方, 中国地方	15日2時半頃, 宮崎県日向 市付近に上陸した。
18	8/15	8/16	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方	8/15	8/15	沖縄・奄美	上陸または通過せず。
19	8/17	8/25	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方, 中国地方, 伊豆諸島, 小笠原諸島, 北陸地方	8/21	8/24	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方	上陸または通過せず。
20	8/22	8/24	西日本, 東日本, 北日本	8/23	8/24	西日本, 東海地方, 関東 甲信地方, 北陸地方, 北 日本	23日21時頃, 徳島県南部に 上陸した。 23日23時半頃, 兵庫県姫路 市付近に再上陸した。
21	9/2	9/5	沖縄・奄美, 西日本, 東 日本, 北日本	9/3	9/5	沖縄地方, 西日本, 東海 地方, 関東甲信地方, 北 陸地方, 北日本	4日12時前, 徳島県南部に 上陸した。 4日14時前, 兵庫県神戸市 付近に再上陸した。
24	9/27	10/1	沖縄・奄美, 西日本, 東 日本, 北日本	9/28	10/1	沖縄・奄美, 西日本, 東 日本, 北日本	30日20時頃, 和歌山県田辺 市付近に上陸した。
25	10/3	10/6	沖縄・奄美, 西日本, 東 海地方, 北陸地方	10/4	10/6	沖縄・奄美, 九州北部地 方, 中国地方	上陸または通過せず。
28	11/27	11/27	沖縄地方	11/27	11/27	沖縄地方	上陸または通過せず。

台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から500km以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。
台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。



丸で囲った数字は台風番号である。→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。

第1図 平成30年(2018年)に日本に影響を及ぼした台風の経路図

前に福岡県豊前市付近に再上陸した。台風は次第に進路を南に変え、29日23時頃に島原半島を通過した後、東シナ海へと進んだ。その後台風は屋久島付近を反時計回りに回り、東シナ海で再度反時計回りに回った後、西へ進んだ。台風は8月3日09時に華中に上陸するのとはほぼ同時に熱帯低気圧に変わり、5日03時に同地域にて消滅した。

(7) 台風第13号 (1813 SHANSHAN サンサン)

8月2日15時に南鳥島の南西海上で発生した熱帯低気圧は北北西に進み、3日09時にマリアナ諸島の東海上で台風第13号となり、5日03時に南鳥島周辺で勢力が最大となった。台風は日本の東海上で次第に進路を北に変え、勢力を弱めながら茨城県東岸を通過した後、北東へ加速し、10日15時に温帯低気圧となり、11日21時に消滅した。

(8) 台風第14号 (1814 YAGI ヤギ)

8月6日09時にフィリピンの東海上で発生した熱帯

低気圧は西へ進み、8日09時に同海域にて台風第14号となった後、進路を鋭く北東に変え、その後北西に進み、その後西へ進んだ。台風は11日21時に宮古島の東で勢力が最大となり、北西へ進路を保ちながら、12日21時過ぎに華中に上陸し、13日09時に華中にて熱帯低気圧となった。その後北へ進路を変え、15日15時に渤海にて温帯低気圧となり、16日15時に華北にて消滅した。

(9) 台風第15号 (1815 LEEPI リーピー)

8月10日21時にマリアナ諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は北西に進み、11日21時に同海域にて台風第15号となった。台風は進路を北西に保ったまま、13日15時に小笠原諸島の西海上にて勢力が最大となり、15日02時半頃宮崎県日向市付近に上陸し、15日09時に対馬海峡にて熱帯低気圧となった。その後次第に進路を北に変え、16日03時に日本海にて消滅した。

(10) 台風第18号 (1818 RUMBIA ルンビア)

8月14日09時に沖縄の南にて発生した熱帯低気圧は北北西へ進み、東シナ海に進み、15日15時に沖縄本島の北西で台風第18号となった。西北西へと進路を変えた後、台風は16日21時に東シナ海にて勢力が最大になった。進路を西北西に保ったまま、台風は17日朝までに華中に上陸し、18日09時に同地域にて熱帯低気圧となり、徐々に東北東へ進路を変えた後、20日03時に黄河下流付近で消滅した。

(11) 台風第19号 (1819 SOULIK ソーリック)

8月15日15時にグアム島の南にて発生した熱帯低気圧は、16日09時にグアム島の北西にて台風第19号となり、北北西に進んだ。その後西北西に進路を鋭く変え、台風は21日03時に南大東島の北東にて勢力が最大になった。台風は東シナ海に進んだ後徐々に勢力を弱め、済州島の西にて北東へ進路を変え、23日遅くに朝鮮半島に上陸し、日本海へ進み、北東へ進路を保ったまま、25日03時に同海域にて温帯低気圧となった。東へと進路を変えた後、北へ進路を変え、30日15時前にベーリング海にて東経180度を越えた。

(12) 台風第20号 (1820 CIMARON シマロン)

8月16日21時にマーシャル諸島近海で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、18日21時にチューク諸島の北海上にて台風第20号となった。徐々に北西へ進路を変え、台風は22日15時に小笠原諸島の西海上にて勢力が最大となった。北へ進路を変えた後、台風は23日21時頃、徳島県南部に上陸し、同日23時半頃、兵庫県姫路市付近に再上陸した。北北東へ進路を変えた後、台風は勢力を弱め、24日21時に日本海にて温帯低気圧となり、25日03時に同海域にて消滅した。

(13) 台風第21号 (1821 JEBI チェービー)

8月27日03時にマーシャル諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西に進み、28日03時に同海域にて台風第21号となり、次第に西へ進路を変えた。台風は西に進路を保ったまま、31日09時にマリアナ諸島の西海上にて勢力が最大となった。台風は北西に進路を変えた後、徐々に勢力を弱め、北北東に進路を変えた。台風は非常に強い勢力を保ったまま、9月4日12時前、徳島県南部に上陸し、4日14時前、兵庫県神戸市付近に再上

陸し、本州を通過し日本海へ進んだ。台風は北北西に進路を変え、5日09時に沿海州の沿岸にて温帯低気圧となり、5日昼前にロシアの海岸線を越えた後、北へ蛇行し、7日15時に北緯60度を越えた。

(14) 台風第24号 (1824 TRAMI チャーミー)

9月20日15時にマリアナ諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西に進み、21日15時に同海域にて台風第24号となった。台風は西北西に進んだ後、25日03時にフィリピンの東海上にて勢力が最大となった。その後台風は、沖縄の南海上で減速して北へ進み、徐々に北東へ向かって加速し、30日20時頃、和歌山県田辺市付近に上陸した。台風は10月1日09時に日本の東海上にて温帯低気圧となり、4日03時前にベーリング海にて東経180度を越えた。

(15) 台風第25号 (1825 KONG-REY コンレイ)

9月28日09時にチューク諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は北西に進み、29日15時にグアム島の南西海上にて台風第25号となり、10月1日21時にフィリピンの東海上にて勢力が最大となった。台風は北西に進路を保ったまま、沖縄本島と宮古島の間の海上を通過した後、東シナ海において北に進路を変え、その後北東に進路を変え、朝鮮半島を通過し、日本海へ進んだ。台風は6日21時に同海域にて温帯低気圧となり、その後東に進み、8日03時に日本のはるか東海上にて消滅した。

(16) 台風第28号 (1828 MAN-YI マンニィ)

11月20日21時にチューク諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西に進み、21日03時に同海域にて台風第28号となり、次第に西北西へ加速した。台風は北へ進路を変え減速した後、ほとんど停滞して、24日21時に沖ノ島近海にて勢力が最大となった。台風はその後同海域で12時間最大勢力を保った後、北西へ進み急速に勢力を弱め、26日21時に南大東島の南海上で熱帯低気圧となり北へ進み、同海域にて27日09時に再び台風となり、同日15時に再び熱帯低気圧となった。熱帯低気圧は北東へ加速し、28日15時に父島の西海上にて温帯低気圧となり、進路を北東に保ったまま、30日21時に東経180度を越えた。